アシュラム ASHRAM

2020.12 月第 625 号

発行所　アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編　集　アシュラム誌編集委員会

振　替　01050-6-53772
アシュラムセンター

印　刷　明文舎印刷商事（株）

解　題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもってみ前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

瞑想

飢えた人にあなたのパンを裂き与え、さまよう貧しい人を家に招き入れ、裸の人に会えば衣を着せかけ、同胞に助けを惜しまず与えなさい。

イザヤ58：7

主幹牧師　榎本　恵

―私の愛には限りがある
悲しいこと　苦しいこと
嫌なことがあると　すぐ底をつく　愛にあふれる人がうらやましかった　比べてばかりだった　さみしい気持ちに　素直になったら　暖かい場所につながった　これからゆっくり育ててゆこう私なりの愛を　限りない愛を―

これは、私が今も定期的に行っている沖縄サマリヤ人病院精神科デイナイトケアの文芸教室の受講生が作った詩だ。毎回テーマを出し、それについて思ったままを、感じたままを詩にするというプログラム。この文芸教室から、2冊の詩集が出版された。たくさんの心の病を負う当事者たちの心の叫びのような詩の中のひとつがこの「私の愛には限りがある」であった。

私は、初めてこの詩を読んだ時の衝撃を、私は忘れることができない。キリスト教の牧師として、「神の限りない愛」をまことしやかに説いている自分の言葉がなんとも薄っぺらいものに感じたからだ。自分は曲がりなりとも、愛を実践しているなどと心のどこかで思い上がっていたものを、打ち砕かれたのだ。

イエスは、その栄光の座に着く時、羊飼いが羊と山羊を分けるように、すべての人々を右と左に分けると言われた。そして、右側にいる人たちに言う。「お前たちは、わたしが飢えている時に食べさせず、のどが渇いたときに飲ませず、旅をした時に宿を貸さず、裸のときに着せず、病気のとき、牢にいるときに、尋ねてくれなかったからだ」（マタイ25：42－43）と。

右側の人、すなわち祝福され神の国を受け継ぐ人は「いつわたしは、そんなことをしたでしょうか」と答え、左側の人、すなわち永遠の火の中に入れられる人は「いつわたしは、そんなことをしたでしょうと答えた人、それはうなだれながら「わたしの愛には限りがある」と言う人だ。彼は、愛の前に謙遜なのだ。一方、いつしなかったでしょうと主張する人、それは胸を張り「わたしの愛には限りがない」と自負する人だ。彼は愛の前に傲慢なのだ。

さて、今年最後のローズンゲンのみ言葉「イザヤ書58章7節」は、先のイエスの神の国のたとえと相通じるものがある。注解書はこう書いている。「何が真に神に従う道であり、神との交わりを開く方途であるか、その秘密を明かす一編。それは形式的に断食や安息日を守ることではなく、むしろ社会的正義の実現と同胞愛の実践である、と力強く宣言された」（新共同訳注解）。確かに、神の限りなき愛を説く私たちにとって、礼拝の遵守や儀式の励行だけが重要なのではなく、社会正義の実現と愛の実践こそ、神に従う道であることは間違いない。しかし、その道中で、いつの間にか、私たちは「いつしなかったでしょうか」と口答えするものになってはいないだろうか。理想を語り愛を求め、社会正義の実現と限りなき愛の実践を行いたいと願いながらも、現実という大きな壁の前に挫折してしまい、怒りと悲しみ、そして諦めと皮肉をもって「どうせ、私の愛には限りがある」と呟いている自分がいないだろうか。

しかし、友よ、それはあの詩人が歌う「すぐ底をつく愛」、「うらやましいだけの愛」、「比べてばかりいる愛」に他ならない。「わたしの愛には限りがある。」けれどもそれを悲しい気持ちで、素直に認めるとき、詩人は見つけたのだ。「暖かい場所」を。「いつそんなことをしたでしょう」と驚き答える、そんな暖かい場所を。

友よ、わたしの愛には限りがある。けれどもその限りある愛の中で、なお愛していこうよ。その愛をゆっくり育てていこうよ

日光オリーブの里 アシュラムに参加して

榎戸　基

10月7日から2日間、日光へ行ってきました。アシュラムも日光も今回が初めてです。

榎本恵牧師と知り合ったのは私たち夫婦がヴォーリズ建築の静岡英和女学院旧宣教師館に住み始めた8年前のこと。とても不思議な出会いでした。その後、5年前から静岡聖書教室が我が家で行われることになり、2年前に私たち夫婦は一緒に受洗しました。

第8回オリーブの里アシュラム

日光のアシュラムに参加した理由は、ムラサキスポーツの金山会長が参加されると聞いたからです。ちいろば先生とのエピソードをお聞きしたくて申し込みました。ところが、日光に着いてみると、金山会長は参加できなくなったとのこと。その時思いました。「神さまは何てことをされるのだろう。」このようにして私をアシュラムに連れてきてくださったのだ。そうでなければ忙しさを言い訳にして、なかなか参加しないでいたでしょう。

日光での2日間は仕事の電話やメールが届かない静寂な時間。1章に1時間かけて聖書の御言葉に向かい合う。ファミリーになった兄弟姉妹と分かち合う。人の話を聞かず、すぐに怒ると言われる私のような者のために、昨日まで知らなかった人が祈ってくださる。とても不思議で良い体験でした。

食事時司会のご奉仕を楽しむ
榎戸ご夫妻

帰宅してからも毎日、ファミリーの兄弟姉妹たちに心を寄せてお祈りしています。るつ子姉に「記念写真をカードに貼っておくといいよ。」と教えていただいたのが良かったです。

（日基草深教会　センターホームページ作成　静岡聖書教室）

人類（動物）とコロナウイルス

岡田　幸助

新型コロナウイルスの自然宿主はコウモリです。コウモリは長年、ウイルスと平和共存してきました。環境破壊で動物を介して人類に感染、グローバル化がウイルスの世界的拡大を生み出しました。

ウイルスとは単独では増殖できない、生きた細胞がなければ増殖できない寄生生命体です。ウイルスは自然宿主では生物の進化や生命活動を助けています。人間のDNAの半分以上がウイルス由来です。人間とウイルスは本来、共存関係にあります。しかし現在、我々はウイルスを敵視し、清潔志向で、抗菌グッズ・除菌消臭剤が広まりました。その結果、免疫力の低下やアレルギー・過敏症をもたらしました。しかし、なぜ別種の宿主では毒性を強化するのでしょう。ウイルスにも生きる権利があります。鳥インフルエンザウイルスはカモでは無毒ですが、鶏に感染し高病原性鳥インフルエンザになりました。ラッサ熱（ウイルス性出血熱）は自然宿主のマストミス（大型のネズミ）では無毒ですが、人間に感染すると致死的になりました。HIV（エイズウイル

ス）もチンパンジーでは無毒ですが、人間では免疫不全をもたらし90％以上の致死率です。きっかけは熱帯雨林の破壊です。ペストも最近の研究により出血熱ウイルスによるものであったということです。他に動物から人間に感染した病気は多数あります。

この闘いには自分の免疫力しかありません。敵視して戦えば戦うほど、ウイルスは変化し、新型ウイルスが登場します。新興感染症にはRNAウイルスが多く存在します。コロナウイルスもRNAウイルスで、1本鎖の遺伝子しかありません。インフルエンザウイルスの2倍の長さがあり、ワクチンが作りにくく、作ってもすぐウイルスが変化します。なぜならば、DNAウイルスは2本鎖ですから、1本が変化しても相手が修復して元に戻します。1本鎖のコロナウイルスは直してくれる相手がいないので、突然変異を起こすと、そのまま受け継がれます。その変化が、時には極めて強いウイルスを生み出し、動物の種を飛び越えて感染しやすくなります。ワクチン開発に膨大なお金をかけていますが、90％は失敗しています。抗ウイルス剤は副作用が強く問題です。なぜでしょうか？ウイルスを攻撃することは、自分を攻撃することになるのです。

盛岡・秋田アシュラムご参加の皆様（その１）

我が国の政治は感染症を軽視し、感染症から、生活習慣病、そしてガン医療にシフトしました。人間の生命を救うものから、経済効果をもたらすものに移行しました。社会構造の変化は深刻な貧困をもたらしました。ブラジルのファベイラやニューヨークのブロンクス地区などコロナは貧困層の弱い人々に襲い掛かります。ウイルスに勝つことはできませんが最小限に食い止めることはできます。コレラやペストの抑え込みは公衆衛生の力でした。残念ながら我が国では1993年に848あった公衆衛生を担う保健所が、2020年には469と半減しました。ウイルスに国境はありません。世界はつながっています。1ヵ国だけが対応しても効果がありません。現在、世界には犯罪的な経済格差があります。最も富裕な層の26人が世界の38億人分の富を所有しているといいます。ポストコロナ時代はグローバルな政策が必要です。地球規模の問題の解決のために富の再配分が必要です。私たちは戦争war、貧困want、環境破壊waste、3つのwを無くさなくてはなりません。

（盛岡・秋田アシュラム　獣医病理学）

賜物を生かして、研究された事をお話しくださった岡田兄

9月大阪聖書教室、嬉しい再開、喜びの再会‼

大切な友、スコット師が、こんな素敵な演台を作って下さいました！（チャペルで活躍中の机、椅子も！）

アナニアとサフィラ ⑤

（無教会　岡山キリスト集会京都大学在学中）香西　信

香西師発行のマラナ・タより　（第45回年頭アシュラム早天祈祷会での聖書講話に加筆）

信じた人々の群れは心も思いも一つにし、
一人として持ち物を自分のものだと言うものはなく、すべてを共有していた。
（使徒言行録 4:32）

5. 神を利用すること

またその他にも、極端な例を紹介すると、例えば使徒言行録８：16－24を読むと、使徒達（ペトロやヨハネに代表される）が度々奇跡を行って人々の病を癒す記事が見られるのですが、驚くべきことに、そのような使徒達に対して、病の癒しという奇跡を行う力をお金で売ってください。その力を買いたいのです。と申し出るシモンという人の話さえも書かれています。

罪とはまた自分の都合、利益、ご利益のために神を利用すること。このような神を欺く、あるいは自分の都合のために神を利用しようとする人間はしばしば神以外の物を神として拝みます。その偶像崇拝の罪をイザヤ書は以下のように非常に鋭く指摘しています。それは自分の望むものを神とするという人間に根ざす欲望です。例えば名誉、地位、お金、健康などを神とすること。これらは神を利用するという点において神を欺く行為と何ら変わるものではありません。イザヤ書の箇所は罪の本質を言い当てていると思うので、以下紹介してみます。

木は薪になるもの。人はその一部を取って体を温め / 一部を燃やしてパンを焼き / その木で神を造ってそれにひれ伏し / 木像に仕立ててそれを拝むのか。また、木材の半分を燃やして火にし / 肉を食べようとしてその半分の上であぶり / 食べ飽きて身が温まると /「ああ、温かい、炎が見える」などと言う。残りの木で神を、自分のための偶像を造り / ひれ伏して拝み、祈って言う。「お救いください。あなたはわたしの神」と。彼らは悟ることもなく、理解することもない。目はふさがれていて見えず / 心もふさがれていて、目覚めることはない（イザヤ書 44：15－18）

ここには、自分の利益のために神を利用する人間の姿、罪の現実が実にリアルに描き出されています。この罪をアナニアとサフィラの行動と重ね合わせて読むことができるのではないでしょうか。私たちはどんな清廉潔白であると思われる人であっても、このような罪の現実から自由になることはできません。教会の内部にも、それが人間の集まりである限りこのような人間の罪による限界というものは必ずつきまとっています。それは中に潜んですぐにおもてに現れなくとも、いずれ大きな問題として表面化します。

マラナ･タ　第65号　2020年２月より　（続）

あとがき

主のご降誕を心から待ち望み、喜びます。

今年のクリスマスほど、待ち遠しかったものはない。世は今、まさに暗闇の中にある。コロナの第３波が押し寄せようとし、ＧＯ ＴＯが叫ばれてはいるけれども、誰も今の経済状態がいつまでも続くはずがないと思っている。教会でさえも、今年のクリスマスは、例年のように行うことができないと、そうそうに諦めムードが漂っている。そんな中、アシュラムセンターは、新しい「シメオン黙想の家」の完成感謝会を行い、２０２１年の年頭アシュラムに向け準備を始めている。もちろん私たちは、自分たちは大丈夫なのだなどという傲慢な信仰を持つものではない。けれども、同時にこの世には永遠のものは何もなく、しかし必ず神が永遠の住みかを用意していてくださると信じるものである。コロナを正しく恐れるとともに、コロナをも創りたもうた神を畏れる。

暗闇に輝く一筋の光を信じ、新しい年に向かって、歩んでいこう。（恵）

瞬きの詩人
水野源三の世界　42

三浦綾子記念文学館特別研究員
森下　辰衛

女性宣教師　　１９８２

カナダから
はるばると
遣わされてきた
女性宣教師

信州を愛し
福音を語り続けて
三十年

秋風にゆれる
野菊のように
キリストの香りを
優しく放ち
美しく老いてゆかれる

この女性宣教師は坂城の隣の上田で1950～86年の間働かれたカナダ合同教会の宣教師ミス・タンブリッジです。79年に宮尾隆邦先生が召されてのち、上田新参町教会の露木昌一牧師と共に坂城の教会に来られました。その折に、源三さんを訪ねたのでしょう。或いは隣町ですから何度も来られたのかも知れません。

その方は遠くカナダから来られた宣教師でした。思えば、それは何という不思議でしょう。アジアの東端の島国の信州の田舎町でどこにも行けずにじっと炬燵にあたっているだけの、重い障害を持った人が、遠い遠い海の向こうの国、カナダに生まれ育った女性と出逢うなんて。

なぜそんなカナダの人がここにいるのでしょう？その人は、特別に選ばれ遣わされなければ、来るはずのない人。使命が与えられなければ来るはずのない人です。その女性はまさに、使命を帯びて遣わされたのです。こんなに遠くに、こんな彼方の田舎町に、こんな私のところに。

どうして、私がこんなところに来なければならないのか！と唾棄することはなかったのです。その人は愛したのです。遣わされた信州を。遣わしてくださった方を愛するゆえに、愛したのです。それはまさに、彼女にとって、神から「信」じて受け取った「州」だったのでしょう。だからやめなかったのです。愛することを。そしてだから、三十年も、語り続けたのです。

信州を愛し　福音を語り続けて　三十年
秋風にゆれる　野菊のように

弱くて、強くて、どこにでも咲いている草花になって、自然に溶け込んだいのちになって、清しい、わずかに香るやさしい香りを放つものとなるまでに、そこで生きて、きたのです。野菊が自分を作り育て咲かせた方の香りを、その香りの奥からわずかに漂わせるように、その女性宣教師は、生きて、きたのです。

キリストの香りを
優しく放ち　美しく老いてゆかれる

老いてゆくことは、普通、美しいこととは考えられません。肌も髪も声も頬や喉や胸も。老いとは、美しくなくなってゆくことだと考えられています。でも、その人はすべてを、ひとすじに、その信じて受け取って遣わされた州のために使ったのです。その頬に涙し、その胸を痛めて、その肌で受け止めて抱きしめ、その声で語れる限り語ったのです。そしてそのように生きたものにしか現れ出て来ない美しさというものがあるのです。

菊は美しく枯れてゆく花です。晩菊という言葉もありますが、日本人がとりわけ菊を愛してきたのには理由があるのでしょう。大輪の菊でなく、野菊の晩菊。そんな日本の花になってゆかれたこの女性宣教師。その尊さを、そして、その中にキリストがおられたことを、源三さんは見ているのです。

そして、それはかすかに、同じように信州を愛し福音を語る詩を書き続けた源三さんが抱いた、この女性宣教師への友愛であり、遥かな国と遣わされた愛の方への尊敬と憧れのような心なのだろうかと思います。

オンラインに変更もあり。
ホームページ、電話等でご確認下さい。

12月の聖書教室など

【主な問い合わせ先】
0748 － 33 － 4030
アシュラムセンター

1㈫	ZOOM聖書教室（ZOOM AM10:30、PM7:30）
2㈮	第10回 合同平和祈祷会 神戸イエス団教会
4㈮	阪神ミニアシュラム（**シメオン黙想の家** PM1:00）
12㈯	シメオン黙想の家 完成感謝会（AM11:00）
12㈯	聖書と学ぶ会（オンライン PM8:00）
14㈪	福岡聖書教室（博多クリオコートホテル PM1:30）
21㈪	静岡聖書教室（オンライン AM10:00、**PM1:30**）
22㈫	東京聖書教室（オンライン AM10:30）
1/5㈫	ZOOM聖書教室（ZOOM AM10:30、PM7:30）
1/8㈮	阪神ミニアシュラム（主恩教会 PM1:00）

1月のアシュラム予定

21㈭～23㈯	第46回 年頭アシュラム in 滋賀 （琵琶湖コンファレンスセンター 滋賀県彦根市） 奉仕者　榎本恵牧師　（アシュラムセンター主幹牧師） 貴村かたる牧師（日本基督教団 天門教会牧師・日本クリスチャンアシュラム連盟事務局）

みもとに（センター聖書教室の友 田中壽子姉）

召天２ヶ月前にメールを送って下さいました。

「何時も心に留めてお祈りありがとうございました！…副作用が一気に出たようで…入院中です。何もかも神様のお導きの不思議さ…それも説明のつかない信仰の不思議さ―(神様の御手)の中にある事を実感しています！」
主にある温かいお交わり、宝物です。

11月23日 74才 召天

昨年12月、センター合同聖書教室クリスマスにて。よし笛で賛美を奏でて下さった。これからも天上より♪共に賛美を♪

➡クリスマスツリーが植えられました！

シメオン黙想の家にようこそ！樋口栄子母（福岡聖書教室）希姉（常任運営委員、夕礼拝の友）

夕礼拝後、和子母と分かち合い。ちいろば祈りの家から黒見姉、伊賀姉、中村姉。

みことば

日本基督教団　安来教会牧師
山陰アシュラム推奨者
遠藤　誠一

2、祈りを聞かれる方は聖い　①

聖くならなければ、だれも主を見ることはできません（ヘブル12：14）。主とお会いすることができない者が、何を主から得るというのでしょうか。信徒はまず、主と会い、深い会話をしなければなりません。そのためには、まず自分を聖くしなければなりません。聖書はそのように語っています。

神は、モーセを呼ばれる時に、「『モーセよ、モーセよ』と言われた。彼は『ここにいます』と言った。神は言われた、『ここに近づいてはいけない。足からくつを脱ぎなさい。あなたが立っているその場所は聖なる地だからである』」（出エジプト3：4−5）と命令されました。神が聖くされた地なら、そこは聖なる地です。聖なる地では、靴を脱ぎます。不正で汚い地では、靴をはいても、聖なる地では、靴をはくことができません。「聖」とは「区別する」という意味です。この世の人々は、聖い方を見ることができないので、彼らは、区別しないで靴をはいて歩きます。信徒の足の裏は、とげが刺さっても、あるいは鋭い石があって、それによって血が出ても、自分の意識としては「今、私は、聖なる地を踏んで歩いている」という信仰がなければなりません。

たぶん、この時からモーセは、この世を去る日まで、靴をはかなかったことでしょう。モーセが行く道や、彼が行って立つ所は、神が共におられる聖なる地だからです。

人々は、ある特定の場所のみを「聖い」と言って、その所でだけ敬虔で、聖い行動を取ります。そこを出たら、その人はまた汚くなった足で、靴をはいて歩きます。しかし、本当に聖い者は、主なる神の御前にひざまずいたその時から、足に靴をはかないで、一生涯を生きなければなりません。どこに行っても、そこは神が共におられる所であり、私が行く所なら、どこででも神が聖くされた所だという信仰によって行動しなければなりません。たいてい、聖日だけ聖い日だと考えたり、礼拝をささげる時間だけを聖い時間だと思って、それ以外は自分の足に靴をはきます。このようなことを神がご覧になる時、どう思われるでしょうか。

私たちが主イエスを信じ、イエスの御名でバプテスマを受けたその時間から、私たちの生涯は聖い道を歩み、聖い生活をするべきです。足の裏にとげが刺さり、鋭い石のために傷つく時、今、自分は聖い所に立っていて、聖なる地を踏んで歩いているのだということを、忘れてはいけません。たとえ、厚い靴下に、厚い靴底をつけた靴をはいて歩いても、聖なる地を踏んでいるように、靴を脱いでいるのだと考えなければなりません。

私たちには、どの時間も聖くない時間がありません。聖いとは、神の御前にある人生と生活です。職場へ行っても、聖なる地を踏んで生きなければなりません。自分は足から靴を脱いだ者であると意識しなければなりません。あなたの祈りが、必ず届けられなければならないと思ったら、そのようにしなければならないのです。（次号につづく）